

**指標1 実質赤字比率**

一般会計の赤字額の割合です。赤字の比率が高くなるほど、財政悪化が深刻となります。

本町の一般会計は、黒字決算となりましたので、数値化はされません。

**指標2 連結実質赤字比率**

一般会計だけでなく、特別会計も加えた赤字額の割合です。

本町は、全ての会計において黒字決算となりましたので、数値化はされません。

**指標3 実質公債費比率**

借入金の返済額が財政に及ぼす負担を表す指標です。この比率が高いほど、資金繰りが厳しいことを表します。

本町の数値は、早期健全化基準を大きく下回っており、健全であるといえます。

**指標4 将来負担比率**

これから支出が予定されている借入金の返済などの負担額の割合です。この比率が高いと将来的に財政が圧迫される可能性が高くなります。本町では負担額を上回る歳入が

(単位:%)

	豊山町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	15.0	20.0
連結実質赤字比率	—	20.0	30.0
実質公債費比率	△1.1	25.0	35.0
将来負担比率	—	350.0	

※表中の「—」表示は数値がない(赤字がない)ことを表しています。

予想され、将来的にも黒字決算が見込まれるため、数値化されていません。

**資金不足比率とは**

公営企業ごとの資金の不足額の事業規模(事業収入)に対する比率で、経営状態の悪化の度合いを示します。「経営健全化基準」以上になると、経営健全化計画の策定が義務付けられます。町が独自で運営する公営企業は下水道事業ですが、資金不足が生じておらず、数値化されません。

(単位:%)

	会計名	豊山町	経営健全化基準
資金不足比率	公共下水道事業特別会計	—	20.0

※表中の「—」表示は数値がない(資金不足が生じていない)ことを表しています。

**まとめ**

以上のとおり、平成二十九年度決算における本町の算定結果はすべての指標において基準値を大きく下回り、健全な財政状況であることが証明されました。

今後においても、限られた財源を最大限活用するために最新の情報を収集しながら各事業の精査を進めていきます。

また、借入に頼らない自立的な財政を堅持してまいります。

▼問合せ 総務課企画財政・情報係  
☎ 28・0913

**平成29年度 町民1人当たりの負担額および支出額**

町税総収入額	43億5,993万円	町民1人当たりの税負担額	27万7,243円
歳出決算総額	65億8,622万円	町民1人当たりの支出額	41万8,811円
基金現在高	21億8,989万円	町民1人当たりの基金積立額	13万9,253円
地方債現在高	18億5万円	町民1人当たりの地方債発行残高	11万4,463円
人口 (平成30年3月31日現在)		15,726人	

※町民1人当たりの支出額の内訳

区 分	1人当たり支出額
社会福祉・児童福祉	12万9,750円
学校・生涯学習	6万3,947円
都市基盤の整備	3万5,720円
防災活動	2万3,488円
その他	16万9,046円
合 計	41万8,811円

平成29年度 都市計画税の使途

事業区分	事業費	都市計画税充当額
公共下水道事業	4億3,171万円	2億4,390万円
合 計	4億3,171万円	2億4,390万円

**平成29年度 歳出決算(性質別)**

区 分	決算額	構成比
義務的経費	人件費	9億4,651万円 14.4%
	扶助費	9億5,966万円 14.6%
	公債費	1億5,160万円 2.3%
投資的経費	単独事業	4億1,131万円 6.2%
	補助事業	9,839万円 1.5%
その他の経費	物件費	14億1,568万円 21.5%
	補助費等	8億1,244万円 12.3%
	繰出金	7億4,209万円 11.3%
	積立金	9億5,435万円 14.5%
	投資及び出資金・貸付金	5,900万円 0.9%
	維持補修費	3,519万円 0.5%
歳出総額	65億8,622万円 100.0%	

平成29年度 特別会計決算

会計区分	歳入決算額	歳出決算額
国民健康保険特別会計	18億1,704万円	17億6,589万円
後期高齢者医療特別会計	1億9,910万円	1億9,402万円
介護保険特別会計	9億266万円	8億7,117万円
介護サービス事業特別会計	407万円	386万円
公共下水道事業特別会計	5億3,254万円	5億2,982万円
合 計	34億5,541万円	33億6,476万円